

課題名：CureApp AUD 飲酒量低減治療補助アプリの 医療機関導入にかかるコスト・ベネフィットの量的、質的分析

代表機関：株式会社CureApp

分担機関：久里浜医療センター、筑波大学

全研究開発期間：2025/7/25～2026/3/31

研究の背景・目的：治療アプリ導入の手間や専門医療機関以外での有効性に関する量的・質的のエビデンス構築

- アルコール依存症の早期介入普及への貢献を目指して開発されたCureApp AUD 飲酒量低減治療補助アプリが2025年9月に保険適用を受けた。
- しかし、医療機関からは、治療アプリ活用の業務負担、患者の受容性、非専門医療機関での有効性への不安がしばしば聞かれる。
- 本課題では、上記の医療機関の不安に答えるためのエビデンスを構築し、本アプリに限らず、治療アプリ一般の導入加速に寄与することを目的とした。

事業達成状況および成果：業務負担・医業収入・有効性・安全性に関する量的、質的データ収集

- 42名のアルコール依存症患者から研究参加同意を得て精神科（7施設）、内科（8施設）のいずれかに割付するランダム化比較試験を実施した。
- 全研究参加施設・患者から業務負担・医業収入・有効性・安全性に関する量的、質的データの収集を行った。

研究の将来展望：治療アプリ全般において医療機関が導入を検討する際に役立てられうる知見の発表

- アプリを用いた飲酒量低減治療の所要時間、業務負担・医業収入・医療機関種別での有効性、安全性の予備的比較データを学術誌で発表予定。
- 本課題で得られた知見は、本アプリだけでなく治療アプリ全般において医療機関が導入を検討する際に役立てられうる。

概要イメージ CureApp AUDの構成と研究イメージ

患者アプリ



5~10分/日のアプリ活用

医師アプリ



活用

月1回通院時に指導

業務負担・医業収入・有効性・安全性の検証

- ①多施設ランダム化比較試験による量的データの取得
- ②医療者、患者へのインタビュー調査による質的データの取得。